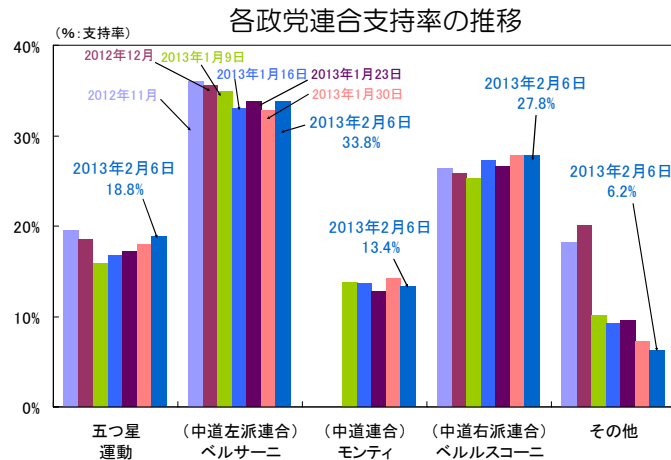




イタリア議会は「ねじれ」に – 27日のイタリア国債入札結果で影響見極め

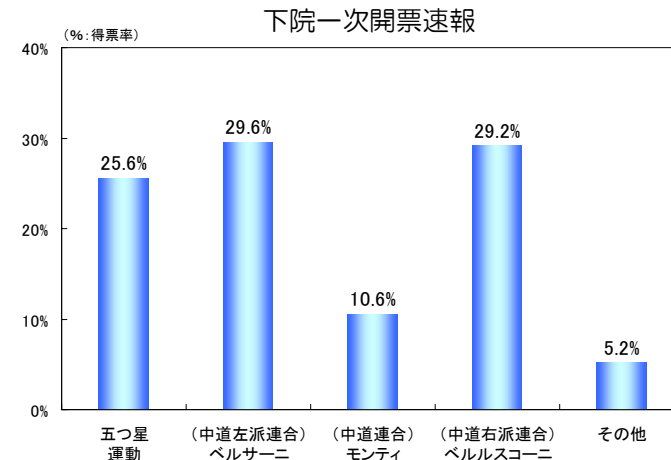
【図1】(選挙前)は混戦模様



注) SWGイタリア公共テレビジョン実施の世論調査から引用。各政党は報道等で判明している政策連合へ集約。2013年2月6日の調査は、2013年2月4日から6日の回答回収に基づく。選挙投票日前の一定期間は政党支持率の世論調査は禁止される。

出所) SWG for the Italian public televisionより当社投資情報部作成

【図2】(選挙速報)では緊縮財政推進派(中道左派)が僅差で勝利か？



注) 各政党は報道等で判明している政策連合へ集約。イタリア内務省は投票数のみ公表。上図得票率は当社投資情報部で計算したもの。上図数値の合計は、四捨五入の影響で100.0%と異なる。

出所) イタリア内務省から当社投資情報部作成

2月24日、25日のイタリア上下院議会選挙は、東京時間26日未明から開票作業が行われていますが、下院は中道左派連合が過半数議席を確保、一方上院は接戦の様相です。正式な選挙結果は東京時間(26日)夜、発表される見込みです。

昨日(25日)の海外市場では、このイタリア選挙戦の混迷への警戒感からリスク・オフが台頭し株安となったほか、ユーロは、対ドル、対円ともに下落、ドル円もこの動きに合わせて大幅な円高が進行しました。もっとも、26日の東京時間(午後2時現在)では、ドル円は再び円安方向に推移しています。

イタリア議会は上院と下院で構成されますが、選挙制度は異なります。下院は全国レベルで最多得票を獲得した政党(政策連合)に全議席の54%が配分されず(今回の最多得票は中道左派連合)。上院は20州の選挙区毎の最多得票政党(政策連合)に各州単位で55%の議席が配分されます。つまり各政党(政策連合)地盤の多寡が上院全体の議席数を左右します。

今回のイタリア議会選挙の焦点は、緊縮財政を継続するか否かでした。下院を制した中道左派連合は緊縮財政派ですが、上院での過半数議席の確保には至らず(99%の開票率時点)、同じく緊縮財政を掲げるモンティ前首相の中道派と合わせても上院の過半数には届かない模様です。この結果、上下院は多数派政党(政策連合)が異なる「ねじれ」となる見込みです。今後は、このねじれ解消に向けた政党(政策連合)間の協調が模索される見込みですが、合意に至るかは不透明です。またこの協調、再編が難しい場合は、再選挙となる可能性もあります。

今回の選挙結果は、短期的には投資家のリスク資産投資の動きを弱め、世界的に株安、円高の材料となる可能性を秘めています。しかし、27日に実施されるイタリア国債の入札に旺盛な需要が集まれば、イタリアの財政に対する投資家の信頼は高いとみることできるため、昨年のような欧州債務問題を発端としたリスク・オフ相場が長期化する可能性は低くみられます。(徳岡)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。（作成基準日：2013年2月26日）
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問投資情報部の見解です。また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。